

コブシハ山中ニ自生アリ、其木高大枝條繁密、枝梢ゴトニ夏ヨリ蕾ヲ生ズ、形筆頭ノ如シ、秋冬ヲ經、葉已ニ落テ後漸ク大ナリ、白色微褐ノ毛アリテ小桃ノ如シ、故ニ釋名ニ木筆ノ名アリ、二三月ニ至テ、未ダ葉アラズシテ先ヅ花ヲ開ク、木蘭花ニ似テ小ク、六瓣白色ニシテ紅條アリ、一種淺紅色ナル者アリ、ムラサキコブシト云、花史左編ノ紅石菴本草彙言ノ紫蘭ナリ、時珍ノ說ニ、有白色者人呼爲玉蘭ト云ハ、和俗白木蓮ト呼ブ者ナリ、一名ヲホコボシ波丹イトマキザクラ部南部即辛夷ノ一種ナリ、樹ノ高サ二三丈、仲春花ヲ開ク、大サ木蘭花ノ如シ、形モ相似テコブシヨリ大ナリ、香氣多シ、色白シテ微綠ヲ帶ブ、花謝シテ後新葉ヲ生ズ、辛夷品類皆然リ、一種シ。デコブシアリ、一名ヒメコブシ。木ノ高サ二三尺、或ハ丈許ニ至ル、枝條繁密同時ニ花ヲ開ク、大サ三寸許、細瓣長サ二寸許ニシテ十二三瓣アリ、色白シテ一ツノ淡紫條アリ、瓣ゴトニ曲リ亂ル、故ニシデコブシト呼ブ、又白花ノ者紫紅花ノ者アリ、

〔剪花翁傳前編一正月開花〕辛夷こよし 花八重ともいふべきなれ、色淡紅、開花早きは正月末より三月まで咲

也、方日向地二分濕、土撰はず、肥大便寒中入べし、接木蓮華砧に春彼岸寄接にすべし、移秋彼岸よし、水は自然に升ることもあり、もし上ざるときは、切口を割て蜀椒を三四箇木の大小に應じ、挟み、水器に入おき、水上て後插花にすべし、

四手辛夷しで 花の色淡紅、形四手のごとく、下に垂れ咲也、開花正月末なり、育方水升の方、共に辛夷に並び同じ、

〔夫木和歌抄二十九〕

うちたえて手をにぎりたるこぶしの木心せばさをなげく比哉

〔催馬樂〕呂 妹與我 一段、拍子十、

いもとわれと妹とわれと、いるさの山の山。あ。ら。ぎ。手なふれそや、かをかをすがにや、かをまさ